

記念貨幣入りハードカバー切手帳（山口県）

●ケース表イメージ

●ケース裏イメージ



●内側（三つ折り）イメージ



山口県

山口県は本州の西端に位置し、東側を除く三方が海に開かれ、東は豊後県及び広島県に接しています。面積は約6,114km²、13市6町の19市町で構成されています。

山口県は、西及び北は豊後、日本海、南は瀬戸内海に面し、約1,500kmに及ぶ長い海岸線をもっています。県の外縁部中央部に位置する秋吉台には、カルスト地形とよばれる石灰岩が水に溶けてできた地形が広がります。

気候は、山地型（県東部の山間部）、内海型（県東部の瀬戸内側）、日本海型（県西部などその他の地域）の3つに区分されます。山地型は、他の地域に比べ平均気温は低く降水量は多いです。内海型・日本海型は、山地型に比べ平均気温は高く降水量は少ないです。また、内海型の地域の冬期は、季節風が弱く、晴れる日が多いです。

山口県旗
「山口」の文字を組み合わせ、県民の団結と飛躍を象徴に作られてはばたく飛鳥にかたどられ、山口を表しています。
(1962(昭和37)年9月3日制定)

山口県の鳥（ナベヅル）
ナベヅルはツル目ツル科の渡り鳥です。山口県周布市の八代伝は本州唯一のナベヅルの越冬地として有名で、「八代のツル」ともよばれる。1955(昭和30)年に特別天然記念物に指定されています。
(1962(昭和36)年10月18日指定)

山口県の花（夏みかんの花）
山口県が原産地で、5月が来ると、香水を振りまいたような香りが漂います。花は1か月程咲き続け、今が種実します。
(1954(昭和29)年3月22日制定)

500円バイカラー・クラッド貨幣

バイカラー・クラッド貨幣とは、2種類の異なる金属を組み合わせた「バイカラー」技術と、金銅板と異なる種類の合金板で核を形成した「クラッド」技術が組み合わさったものです。

(山口県) 表面『翔鶴光寺五重塔(るのこびこびのり)』

◎ 歴史・翔鶴光寺五重塔をデザインしています。
翔鶴光寺五重塔：山口市翔鶴光寺の境内にある権成王の五重塔。室町時代中期に建てられた建造物の一つであり、大内文化の権威的建造物として、その美しさは日本三名塔の一つにも数えられています。大内氏 26代義隆が巨大内輪出の塔を造営するために建立を命じたといわれ、1442(嘉吉2)年に完成した。1952(昭和27)年に国指定の文化財となっている。

500円バイカラー・クラッド貨幣の概要

(省資源府県共済)
表面『古銭のイメージ』

500円
黄銅
黄銅
黄銅
黄銅
黄銅
黄銅

裏面
黄銅
黄銅
黄銅
黄銅
黄銅
黄銅